



校長室だより

平成23年6月号

彩が丘小学校長 竹川智子



急がば回れ！読書は学力を高める近道

「本を読むと読解力がつき国語力が高まる」ということは誰もが知っていることでしょう。読書力は学力の土台になるものですし、力のある児童は自然と本に親しんでいます。

読書の効用1 ものごとを見る目が養われる

インターネットが普及している現在、知りたいテーマは検索すれば一発で出てきます。パソコンとは実に便利な道具です。それに比べて、本で何かを調べるのは時間も労力も数倍以上。なにしろ、本は自分の知りたいことだけが書かれているわけではありません。無関係なことが書かれていたり、肝心な知りたいところは、やけに難解だったりします。本を通じて知りえた知見というものは、自分で開拓した裾野が広い分だけ応用範囲も広がります。そうしていつの間にか、もともと知りたかった問題を解決できるような広い視野を手にするというのが読書の醍醐味でしょう。本から本へと渡り歩いていくうちに「求めているものの在りかを見つける目」が養われていくのです。

読書の効用2 語彙が増える

本を読むと語彙も増えます。物語の中では、ある気持ちを表現するにも様々な言葉が使われています。人によって感じ方が異なることもあります。作品の中での「生きた言葉」として入ってきますから、子どもは語彙を自然と獲得していきます。

読書の効用3 キレにくい子どもが育つ

思春期の入り口に入る子どもは、誰もが「ちょっとあやしい世界」に興味を示すものなのです。しかし、読書を通して人間の醜さや愚かさを疑似体験していれば、現実社会で経験できないことに対するさまざまな免疫が身に付くでしょう。また、自分のネガティブな気持ちは、物語や小説の中に似た形で出てくることがあります。これも作品の中で「どのようにこらえるか」をあらかじめ疑似体験していると、実際に気もちのはけ口のないような状況に立たされても、どこか「ため」ができてこらえられるようになります。